

		情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	目標・事業計画	情報発信 700件 [100]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 72回 [88] 学生、VC、起業家、支援機関、企業対象としたイノベーター人材のコミュニティ形成のためのセミナー等 ② 海外ワークショップ(学生、起業家) 1回 [2]	① (新)ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム 3回[-] ② (新)アイデアソン 2回[-] ③ ハッカソン(ものアプリ、ソフト系) 6回[6] ④ オープンイノベーションマッチング 4回[4] ⑤ (新)ピッチイベント 35回[-]	● 国際イノベーション会議開催 プロジェクトのプロモーション機会創出 参加者: 650人以上 [650人以上] 国際会議 1回 [1]
	実績	● イベント告知 日本 256本、英語 4本 ● イベントレポート 日本語 23本、英語 17本 ● ニュース 日本語 25本、英語 23本 ● HP新コンテンツ 日本語 15本、英語 5本 ● FB投稿 日本語 329本、英語 59本 ● メルマガ 25本、DM45本、プレスリリース 4件 (うち、他自治体での発信7、他自治体案件発信11) 計 830[697]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 181回 [119] ② 深セン、シリコンバレー 2回 [2] ・新セン:H28年7月12日~7月17日実施3人[一人] ・シリコンバレー:H29年2月27日~3月3日26人[39人]	① 5回 [-] ② 5回 [-] ③ 6回 [11] ④ 5回 [4] 52回 [-]	● 国際イノベーション会議「Hack Osaka 2017」を平成29年2月9日(木)にうめきたコンプレックスコンベンションセンターにて開催 ● テーマ:「イノベーション文化を創るデザインの力」 ● キーノート:ニック・スタージ氏 (Director for Engine Shed)、グローバルチャレンジャーズトーク:土屋尚史氏 (CEO of Goodpatch) 他 ● インターナショナルピッチコンテスト(ヘルスケア、トラベルテック分野等) ● サブ会場:スタートアップショーケース(展示ブース)の他、新規で学生Pitch Contest、Monodukuri Hardware Cup(ピッチバーge開催の予選)を開催。 ● 参加者数 737人[602人]
アウトカム(成果)	目標・達成水準	国内外のメディアに取り上げられる 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① HPのユーザー数 326,000 [H25~27計100,000] ② FBの「いいね」数 8,300 [" 4,000] ③ メルマガ登録者数 22,000 [" 10,000] 定性的指標 ● メディア掲載数及びメディアによる評価	起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① 会員制度(Osaka Hackers Club)登録者数 1,000 [H25~27計600] ② Osaka Hackers Club(OHC)会員(プレイヤー・パートナー)が持つ情報発信対象者数 33,000 [H25~27計9,000] ③ (新)OIHを拠点に活動するコミュニティ数 1[-] ④ (新)外部団体との連携活動 1[-] 定性的指標 ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている	イノベーション創出に資するプロジェクトが具体化している 定量的指標 (H28~30年度累計) ① 事業化プロジェクト創出・推進支援件数 150件以上(50件以上/年) [H25~27計115] (投資を受けたプロジェクト(調査回答分)25億円 [H25~27計約17億円]) ② (新)プロジェクト創出をめざすチーム組成 1件[-] (事業化定義) ● 守秘義務、共同研究等契約関係、ソフトウェア等における試作版の公開、資金調達に向けた具体的アクション ● スーパープロデューサーが認定したもの	国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場として、国際イノベーション会議が評価される 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 [100] ② メディアでの掲載数 10件以上 定性的指標 ● メディアによる評価内容 ● YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方	平成27年度の実績を勘案して設定している	平成27年度の実績を勘案して設定している	25年~27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援100件を目標。27年度の目標50件を28年~30年度に継続	時宜にあったテーマ設定や効果的な情報発信を行うことで、少なくとも昨年度並みの成果を設定している
実績	定量的指標 (H25~30年度累計) ① 240,247 ◀-----[H25~27計176,168] ② 5,732 [" 4,652] ③ 14,180 [" 11,051] 定性的指標 (国際会議含む) ● WEBメディア掲載 41回 [56] ● 新聞・雑誌掲載 13回 [53] ● テレビ放映 5回 [7] ● 今年度から実施しているアクセラレーションプログラムや大阪府、神戸市等でのベンチャー支援など、昨年度から関西においてベンチャー支援が盛んであり、それに伴い、OIH(大阪イノベーションハブ)も新聞に好意的に取り上げられている。	定量的指標 ① 761人(プレイヤー537人、パートナー224人) [574(417、157)] ② 104,885人[14,958] ③ 6団体[-] ④ 9件 [-] 定性的指標 関係先とネットワーク構築 ● 約8万人の会員がいる団体がOHCメンバーとなり、情報発信対象者数が大きく増加。 ● ベンチャーコミュニティ、Code for Osakaなど新たなコミュニティを誘致。 ● 経産省のプロジェクト「始動 Next Innovator プログラム」の第1期の有志メンバーによる、関西の大企業新規事業担当者へのメンタリング、関西経済同友会の経営者によるメンタリングなどで関係を構築。 ● 海外の支援者とのピッチ、起業家の相互受入提携等によりネットワークが拡大。	定量的指標 ビジネスプランコンテストや、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームの状況の把握に努めている。 ① 36件 [53] (シードアクセラレーションプログラムの20件と合わせて56件) (投資額は、約3億円(アンケートに回答のあった8件。過去に支援したプロジェクトも含む))、シードアクセラレーションプログラムと合計で約8.5億円) ② 5件 [-]	定量的指標 ① 外国人参加者数94人、比率 94/737で12.8% [87/602で14.5%] ② 13件 [23件] 定性的指標 ・Youtube視聴者数:384件 [585] ・Facebook投稿 : 41件(リーチ数20,909件)[34] ・Facebook いいね :131件 [141]他	

評価：S 目標・達成水準を上回っており、特筆すべき進捗状況にある
 B 目標・達成水準の到達に向けて、おおむね進捗している
 A 目標・達成水準に到達しており、順調に進捗している
 C 目標・達成水準の到達のために、重大な改善事項がある

			情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
自己評価	段階別評価	アウトプット	A	S	S	A
		アウトカム	A	S	A	A
	自己評価各事項別コメント		<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信目標は、過去実績を踏まえて上方修正したが、目標も昨年度実績も上回り、積極的に発信に取り組んでいる。 ●OIHのロゴを変更し、ブランドイメージの強化に取り組んでいる。 ●市長がOIHのイベントに登壇し、また初の海外出張にサンフランシスコ市、シリコンバレーを訪問するなど、OIH認知度向上や本市のベンチャー支援を重視する姿勢を発信することができた。 ●今年度は海外からの視察受入や海外のピッチコンテストの予選をOIHで開催する機会が増え、海外への発信につながったと考えている。 ●英語での発信を強化しており、海外からの視察増に影響しているのではないかと考えている。 ●アウトカムも目標達成に向けて堅調。新聞・雑誌掲載数の昨年度比での減少は、昨年度は、「新聞の未来を考えるハッカソン」イベントが全国の紙面で紹介されたことによる。メディアでの掲載頻度が高まるよう、新たな取り組み等の話題づくりが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外部団体との共催イベントの誘致に成功しており、イベント数は目標数の倍以上、イベント参加者数は過去最高実績に達した。近畿経済産業局と連携した女性起業家支援や「ベンチャー型事業継承」として第2創業を後押しするもの、高校生による高校生のための起業家教育など様々な事業を実施した。 ●海外ワークショップは、深圳市との連携により初開催。シリコンバレーは昨年度比で参加者が減少。同時期に神戸市のツアーがあったことも要因と考えているが、様々なニーズに対応できるよう、OIHでは別の場所での開催も検討。 ●大阪ハッカーズクラブの会員数も順調に推移し、会員の持つネットワークも拡大している。 ●新たに誘致したベンチャーコミュニティ、Code for Osaka、ITエンジニアのコミュニティなど、目標を大きく上回る6団体を誘致したが、これらとの連携によりプロジェクト創出につながっていくことが課題。 ●「始動」メンバー、関西経済同友会所属の経営者によるメンタリング、新経済連盟との連携など、目標を大きく上回る外部団体との連携でプロジェクトの創出・推進支援に取り組み、ネットワークを拡大した。 ●また、海外とも、テルアビブとの起業家相互交流事業や、フランス大使館との間でイノベーション分野における協定を締結し、フランス各都市のイノベーション担当部署と連携できる体制を構築した。今後はこれら地域に起業家を送り込み、また、海外の起業家を呼び込むことをめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ピッチイベントを目標を上回って開催し、プロジェクト創出イベント数全体とともに目標を2割以上上回っている。 ●中国・深圳やオランダなどの団体主催の国際ピッチコンテストの日本予選や、日仏イノベーションイヤーのクロージングイベントとして両国ベンチャーによるピッチコンテストを開催。またKDDI∞Labo、NICT(情報通信研究機構)主催の「起業家万博」・「起業家甲子園」の大阪予選なども開催し、OIHを介して国内外の様々な支援者等につなげることができた。 ●起業家人材を増やすため今年度から開始した、教育事業(ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム等)において、プロジェクトに取り組むチームが生まれている。事業化に至るよう適切にフォローを継続するよう努める。 ●別委託事業 OIHシードアクセラレーションプログラムで第1期、第2期各4カ月ずつ計20社のベンチャーを、大企業やベンチャーキャピタルからのメンタリング等により支援し、資金獲得や事業プランの改善等につなげ、プロジェクトの推進を支援した。 ●以上の結果、創出・推進できたプロジェクトは目標の50件に対して、上記別委託事業と合わせて59件となっている。 ●59件のうち、女性が代表者となっているものは7件であり、全体の約1割が女性起業家によるものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「イノベーション文化を創るデザインのカ」をテーマに、英国ブリストルにおいて、オープンイノベーションに取り組んでいる支援者等が登壇し、大阪でのイノベーション創出をめざすムーブメントを、市民も参画するまちぐるみの文化として根差すものとするための議論を行った。 ●サブ会場では例年と同様、OIHで支援した起業家による出展ブースやVCとのマッチングを実施した。今年から新たに学生対象のピッチイベントやピッツバーグで開催される Monodukuri Hardware Cup の日本予選を開催し、例年より多くの参加者を引き付けることができ、目標数を上回り過去最高の参加者数を記録した。 ●昨年に引き続き、英語での開催や、展示、各種ピッチコンテストなど充実した内容で、来場者の80%強から満足、やや満足という評価を得た。 ●サブ会場の満足度は60%弱であった。これは、ミニステージのために来場者が展示に集中しにくかったためと分析しており、次回に改善が必要と考えている。 ●外国人数は前回実績を若干上回り、概ね目標に達した。 ●今回から、民間との実行委員会方式で開催し、サブ会場のイベントは放送局やものづくり支援団体等による事業を開催した。結果、39歳以下が参加者全体の47%を占めるなど、多くの若者が参加した。
	来年度の方針		<ul style="list-style-type: none"> ・連携する国内外のコミュニティや(WEB)メディア、関係機関との連携、英語による発信など、発信力の強化に引き続き取り組む。 ・起業経験者の体験談など、起業マインドの醸成や起業スキルの向上に資するコンテンツを充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き共催イベントを活用して、幅広いイベントを実施する。 ・会員のメリットを感じてもらえるよう、プレイヤー会員に対する個別支援などの体制整備に取り組む。 ・誘致したコミュニティや外部団体に対し、プロジェクト創出につなげるために働きかけを行っていく。 ・「実証実験都市・大阪」の実現に向け大阪市と提携する大阪商工会議所とも連携してプロジェクト支援等につなげていきたい。 ・新たに構築した海外との連携先とともに起業家の相互交流の実現をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッチイベントの数を増やしOIHのつなげる機能を高めていくため、起業家やオープンイノベーション志向の既存企業等を増やしていく必要があり、学生や研究者に対する起業家マインドの醸成や起業家教育、国内外からの起業家の呼び込みなどあらゆる取組みを進めていく。 ・産学連携の取組みを進め、IT以外のテクノロジー系のベンチャーの輩出をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も引き続き民間との実行委員会で開催し、民間のノウハウやネットワークを活用して発信力強化を図るとともに、イノベーション創出活動の自立化を進めていく。 ・外国人参加者数を増やしていくために、関西エリアの留学生ネットワーク等と連携しているが、新たな取り組みの検討も必要。
評議会評価	段階別評価		A	S	A	A
	事業総括コメント		<p>・情報発信については、この4年間で東京でも認知度が高くなっており、全ての取組みの中で一番の成果。今後は、成功例のケーススタディなど起業家等にとって価値のある情報を発信し、常に先をいっていきべき。評価はAかそれ以上でもいい。</p> <p>・OIHを中心に活動するコミュニティについては、海外のネットワークにつながっているなどして、大変クオリティが高いと感じておりSでいい。毎年、AI等、技術は深化しているので、次の新しい展開を敏感にキャッチし、それに携わるコミュニティとつながっていくことを意識する必要がある。また、まずは大阪市内での連携を強靱にしなが、関西、日本、グローバルに広がっていく方がいい。</p> <p>・プロジェクト創出については、ベンチャーが価値を感じる支援を実施していることは評価できるので、アウトプットのSは当然。大学の技術シーズからのプロジェクト化が少ない点などを踏まえるとアウトカムはAかAプラスでいい。AIのように次の新しい波をいち早くキャッチして欲しい。</p> <p>・国際会議については、サブ会場において初めて開催した各種イベントの日本予選など努力はよく見える。サブ会場の満足度が60%弱であったことが気にかかる。付加価値を感じられるようなサブ会場となることを期待する。アウトプット、アウトカムからは、Aが妥当。</p>			